

2019年2月27日

各 位

株式会社電通国際情報サービス

ISiD、ディープラーニングを用いた自然言語処理技術の Studio Ousia と資本・業務提携

～最先端の対話型 AI システム「QA ENGINE」の本格活用を加速～

株式会社電通国際情報サービス(本社:東京都港区、代表取締役社長:名和 亮一、以下 ISiD)は、高精度な対話型 AI システム「QA ENGINE」を開発・提供する株式会社 Studio Ousia(読み:スタジオ・ウーシア、本社:東京都千代田区、代表取締役:渡邊 安弘および山田 育矢、以下 Studio Ousia)と業務提携し、併せて、同社による第三者割当増資を引受けたことのお知らせします。今後、両社は Studio Ousia が有する自然言語処理技術および ISiD が培ってきた事業開発力や顧客業務システムの構築ノウハウを生かし、「QA ENGINE」の機能強化や幅広い業界での活用を加速させてまいります。

対話型 AI システムとは、自然言語処理技術などを利用して人と対話するシステムを指します。2016 年頃から市場形成が始まった新領域であり、目下、金融機関をはじめとするさまざまな業界において非常に注目されています。とりわけ、企業の社内外の質問応答業務への適用により、同業務の 2 大課題である、現場の人手不足とオペレーターの知識不足の解決に期待が寄せられています。今後、多機能化や他分野への応用により、業界を問わずさらなる普及が進むと考えられており、その市場規模は今後 5 年で 10 倍以上に拡大^{*1}すると予測されています。

Studio Ousia は、ディープラーニングを用いた自然言語処理の領域において世界トップレベルの技術を有するスタートアップ企業です。同分野で著名な国際会議 NAACL^{*2}におけるコンテストでの優勝歴をはじめとし、論文誌 TAACL における主要論文の採用^{*3}、AI に関する世界最高峰の国際会議 NIPS^{*4}における早押しクイズ対戦で全米クイズチャンピオンを含む有力な人間チームに圧勝する^{*5}などの実績を誇ります。2017 年 1 月に提供を開始した同社の「QA ENGINE」は、当該技術を応用して開発されたもので、圧倒的な回答精度の高さと多言語対応可能なプラットフォームが特徴です。

ISiD は、国内最大級の FinTech ピッチコンテスト「FIBC^{*6}」の開催や、日本初の FinTech 拠点「FINOLAB(フィノラボ)^{*7}」の開設・運営を通して、スタートアップの育成、FinTech におけるエコシステムの構築、スタートアップとのオープンイノベーションによる新規事業創出に取り組んでいます。Studio Ousia とは、2017 年に開催した FIBC への登壇を契機に金融機関における社内問い合わせの効率化に向けた実証実験などを実施してきました。

今般の資本・業務提携は、ISiD と Studio Ousia のさらなる協力関係強化により、ISiD の培ってきた業務ノウハウと顧客ネットワークを生かし、「QA ENGINE」の新たな機能拡充や幅広い業界への展開に向けて共同で取り組むことを目的に実施するものです。さらに将来的には、「QA ENGINE」の多言語対応を行い、本格的な海外展開を推し進めていく計画です。

出資概要、Studio Ousia の会社概要は次のとおりです。

<出資概要>

出資方法 Studio Ousia の株式を第三者割当増資により ISiD が取得

出資日 2018 年 12 月 25 日

<株式会社 Studio Ousia 会社概要>

社名 : 株式会社 Studio Ousia
代表者 : 代表取締役 渡邊 安弘、山田 育矢
設立 : 2007 年
所在地 : 東京都千代田区大手町 1 丁目 6 番 1 号大手町ビル 4 階 FINOLAB 内
事業概要 : 自然言語処理の技術とソフトウェアの開発
URL : <http://www.ousia.jp/ja/>

- ※1 出典:株式会社矢野経済研究所「対話型 AI システム市場に関する調査を実施(2018 年)」
- ※2 NAACL: North American Chapter of the Association for Computational Linguistics の略。自然言語処理分野における著名な国際会議。同分野で、世界で最も権威のある国際会議 ACL(Association for Computational Linguistics)の北米部会として 2000 年に設立。
- ※3 2018 年に著名な国際学会 COLING にて研究成果として論文「Representation Learning of Entities and Documents from Knowledge Base Descriptions」を発表、2017 年には論文誌 TACL にて論文「Learning Distributed Representations of Texts and Entities from Knowledge Base」が採用された。
- ※4 NIPS: Conference on Neural Information Processing Systems の略。機械学習のトップ会議と位置付けられる国際会議。
- ※5 2017 年 12 月、人工知能(AI)に関する世界最高峰の国際会議 NIPS2017 にて Studio Ousia の代表取締役山田らが開発した“早押しクイズ AI”が全米チャンピオン含む 8 名の人間のクイズチームに勝利した。関連記事:<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1802/28/news037.html>
- ※6 FIBC:金融イノベーションビジネスカンファレンス(Financial Innovation Business Conference)の略。ISiD が 2012 年から主催する国内最大級の FinTech ピッチコンテスト。例年未発表サービスも含めた先進金融サービスが多数登場し、国内外における FinTech の最新トレンドが出揃う場となっている。FIBC 公式サイト:<http://fIBC.info>
- ※7 FINOLAB :THE FINTECH CENTER of TOKYO, FINOLAB の略。2016 年 2 月に日本初の FinTech 拠点として ISiD、三菱地所株式会社、株式会社電通の協業で開設された会員制のコミュニティ&スペース。2019 年 2 月現在、スタートアップ会員 45 社、企業会員 13 社が参画。FINOLAB 公式サイト:<http://finolab.jp/>

【出資、事業に関するお問い合わせ先】

株式会社電通国際情報サービス 金融ソリューション事業部 DX ビジネスユニット 小原

TEL:03-6713-7007 E-mail: g-finmarketing@group.isid.co.jp

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社電通国際情報サービス コーポレートコミュニケーション部 多鹿、李 TEL:03-6713-6100 E-Mail: g-pr@isid.co.jp

<ご参考資料>



関連プレスリリース

- ・iSiD、Studio Ousia、農林中央金庫が人工知能(AI)による社内問い合わせ対応の実証実験を開始
～自然文による質問に瞬時に回答、世界最先端の技術で融資業務を効率化～(2017年9月8日)
https://www.isid.co.jp/news/release/2017/0908_3.html

<電通国際情報サービス(iSiD) 会社概要>

社名	: 株式会社電通国際情報サービス(略称:iSiD)
代表者	: 代表取締役社長 名和 亮一
本社	: 東京都港区港南 2-17-1
U R L	: https://www.isid.co.jp/
設立	: 1975年
資本金	: 81億8,050万円
連結従業員	: 2,783名(2018年12月末現在)
連結売上高	: 91,024百万円(2018年12月期)
事業内容	: iSiDは、社会や企業のデジタルトランスフォーメーションを、確かな技術力と創造力で支えるテクノロジー企業です。金融業務や製品開発の領域で創業以来培ってきた知見に加え、人事・会計など企業活動の根幹を支えるシステム構築の実績、電通グループのマーケティングノウハウ、そしてIoTやロボティクス、AIなど先端技術の社会実装に向けたオープンイノベーションへの取り組みにより、社会と企業の課題解決に貢献する、価値あるソリューションを生み出し続けています。

* 本リリースに記載された会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。